

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話 (〇七五) 二二二二・一八一八

《高野川散策》

早朝、高野川玄関を出て北へ、蓼倉橋から川岸の散策道へ、新しく出来た北泉橋まで、くると東西川岸一周約5千歩約35キロ。所要時間40分〜50分。曇天に恵まれれば、道端の草花を鑑賞したり、景色の写真を撮ったりしながら散策します。

歩く人、ランニングする人、其々賑わっています。追い越し追い越されも人の世の常、すれ違いざまに無視する人、会釈する人、挨拶する人があります。犬との散歩も多く、後処理は殆どの方はされますが、たまにされない方も。推定年齢は30歳代から80歳代と広く、中心は後期高齢者です。

平成7年阪神大震災の春に木屋町四条からこの地に住み着いて、当初は下流域に、暫く散策していましたが、再度上流域への散策気分には！

京都国立博物館

《特別展 畠山記念館の名品》

10月9日〜12月5日

畠山記念館は茶道具を中心に書画、陶磁、漆芸、能装束など日本、中国、朝鮮の古美術品を展示公開している私立美術館で、収蔵品は国宝6件、重要文化財33件を含む約1300件です。創立者畠山一清は能登国主畠山氏の後裔で、長年にわたり美術品の蒐集に努めました。

戦後、国宝の「林檎花図」「煙寺晚鐘図」をはじめ大名茶人松平不昧の茶道具や加賀前田家伝来の能装束など、今日の畠山記念館の中核をなす美術品の蒐集がおこなわれました。畠山即翁は主として茶事の場において所蔵の美術品を披露してきましたが、即翁が天寿を全うした後、愛蔵の美術品を受け継いだ畠山記念館は現在にいたるまで茶の湯の美術館として親しまれています。

《地下鉄の不思議》

常葉臺住職 今小路覚真

京都市内の地下鉄は、烏丸線、東西線共に私鉄が乗り入れています。烏丸線には近鉄が、東西線には京阪が。

それらは外観でも、車内の様子でも違いはすぐに分かります。

しかし、近鉄にも京阪にも共通していて、市営車両と明らかな違いが、一ヶ所あります。

それは吊り革の手で握る部分の形状です。私鉄のそれは全体が三角形を形成していて、手で握る部分はその底辺にあたる直線になっています。一方の市営の吊り革は円形になっています。どちらが握り易いのか、握りにくいのか判断はつきかねますが、不思議なことです。どちらかに統一されていたとしても不便をきたすことではないのに、なぜか形を違えています。なお市営の優先席の吊り革は、三角になっています。

宗教法人花鳥寺 土口哲光住職の説法

《「和顔愛語」の実践から》

新型コロナウィルス禍の中、人間同士が尊重し合って生きる大切さをあらためて感じる。まず身近な所は家庭にある。家庭の人々が、まごころをもつて和らいだ気持ちで仲良くする。にこやかな笑顔で、やさしさに満ちた言葉をかわす。それによつて心が通い合うばかりでなく、身体までもがうちとける。仏教では「和顔愛語」という言葉で、言いあらわす。家庭内ばかりでなく、社会で人々が暮らすうえに一番大切で、真の仏とされている。「和顔愛語」とは、柔らかな顔色で人に接し、愛情のこもった温かい言葉をかけることである。とげとげしい顔をつき合わせていたのでは、家庭内が暗くなる。まず、朝起きて明るく「お早う」を互いにかわして、魂の感動から出発進行

季節の家庭料理

田村真紀

《十月 エビと春雨の蒸し煮》

《作り方・四人分》

緑豆春雨百グラム・海老十二尾・豚バラ肉(薄切り)百グラム・豆苗一パック・生姜二片(千切り)水半カップ・☆(オイスターソース大匙三・ナンプラー大匙二、砂糖大匙二、醤油大匙二・んにくみじん切り大匙一・白コシヨウ小匙一)

海老は背ワタを取り、塩水でよく洗いキッチンペーパーで水気を拭きとる。豆苗は根の部分をおろし半分は長さに切る。春雨は水で戻し七センチ位の長さに切りボウルに入れ、混ぜ合わせた☆の材料で和える。鍋に半分の長さに切った豚バラ肉を敷き詰め、エビ、生姜、春雨と重ね水を回しかけ蓋をして中火で約十分蒸す。火を止め豆苗を加え蓋をして五分蒸し、全体をざっくり混ぜる。

つれづれの記

山崎辰巳

《格差少なき社会を》

振り返れば今夏は、コロナ、五輪に加えて各地を襲った豪雨被害報道に翻弄されたが、ただこの先を想像すれば、コロナの緊急事態対象エリアの広がりによって一層加速するであろう「貧富格差」が何より心配である。休業や営業時間制限を受けた飲食、観光、サービス分野及び、その関連業種の特に非正規従業者の方々、それに加えるなら、現役を退いて今や無名・無冠の老境にある人たちが、ただでさえ爪に火を点す如く、ギリギリの生活を余儀なくされている上に、いつ雇い止めや離職勧告されるかも知れない境遇の人たちには、前途多難な日々が待ち構えている。総裁選や解散総選挙にしか関心がない人のどこに素朴な市民感情があるのだろうか？せめて国や自治体の給付金が平等に行きわたり、格差少なき社会の実現を望みたい。